

目的 ファッションの多様化とファッション情報が多岐にわたることにより、被服の選択・着用に関する人々の行動も多様化している。若い女性にとって、ファッション情報がいかに実際の服装選択に役立てられているかをみるために、ファッション情報の一つである服飾雑誌をとりあげ、それを用いて、若い女性のファッションに関する反応を把握すると共に、同一被験者に衣生活態度や意識についてアンケート調査を行い、雑誌から選択されたデザインや色彩、嗜好等の評価値との関連について分析、検討し、よりよい被服設計への指導のあり方を考察した。

方法 1985年1～2月に関西在住の女子大生130名を対象として次の調査を行い、それについて分析検討した。①若い女性を対象とした雑誌のうち予備調査を行い、月刊雑誌「JJ」1985年2月号を資料として、次の項目—イメージの形容詞用語と関連する服装、好きな服、嫌いな服、日常着用の服、黎明—について質問を行い、出現した項目について服種、黎明別に分類整理し、因子分析、クラスター分析を行った。②基本属性、生活条件、服装の態度、意識について質問を行い因子分析、クラスター分析により類型化を行った。更に、①と②の関連について分析考察を試みた。

結果 ファッション意識、服装イメージ、服装態度のクラスター分析を行い類型化を試みグループの特徴を明確にしたところ、4つのグループがみとめられたが、本被験者の若い女性は、ファッションに興味をもち、流行には敏感であるが服装行動の実態は学生らしい堅実な傾向を持っていることが明らかになった。